

ソフト

—あなたはとうなる—

占いの玉手箱・竹村亞希子

第2回総会講演



りさせるばかりの少女を残して、「仙人」はまた流浪の旅に出た——。

その奇妙な体験が少女の生き方を決めた。「仙人」が姿を消してから九年。結婚し、三児の母となったある日、靈感がひらめき、占いの世界に飛び込んだ。不確実性の時代に迷える人々は多い。企業のパーティーなどで占いコーナーを開くアイデアが、ヒットし、占いの師集団「占いの玉手箱」を結成した。

られた本や書類。ビロードのカーテンなどのおどろおどろしい舞台装置はどこにもなく、アツケラカンとした明るさの中で占う。星占い、東洋易学はマイコンも駆使する。

いま、占いだけの世界から一歩踏み出そうとしている。「サン・ジョルディの日」。スペイン・カタルーニャ地方に伝わる習慣で、四月二十三日には、男性は赤いバラを、女性は本を愛する人に贈る。スペインの守護神から起きたそのならわしをわが国に紹介しようと奔走、マスコミに注目された。行動派の「現代のシヤーマン」である。

文 松谷 洋

(毎日新聞より抜粋)

中学二年の春、仙人のよ
うな男性がフラリと名古屋
の自宅を訪ねてきた。「熊
本の山奥で数理学を研究し
ていたが、夢の中でこの家
を見た」という。それから
五年間、「仙人」が住み込ん

だ。少女は人相、手相、易
学、そして易学を超えると
いう命宮学の教えを受けた。
「仙人」は予言もした。「東
か西のリーダーが死ぬ」と
つぶやく。しばらくしてケ
ネディの暗殺。目をパチク

「霊場」は都心のマンショ
ンの1K。雑然と積み上げ